

2014年（平成26年） 4月 687号

## 神のいつくしみの祭日とヨハネ・パウロ2世

アダム・クジャク

4月20日はご復活祭です。そして4月27日は、ヨハネ・パウロ2世の列聖式が行われ、私たちにたくさんの恵みと喜びが満ち溢れる春が訪れます。

今年は4月27日ですが、「神のいつくしみの主日」は、カトリック教会で神のいつくしみを敬うために教皇ヨハネ・パウロ2世によって2000年に定められ、ご復活の第2主日に祝います。

「神のいつくしみの主日」を祝うために、9日前にあたる聖金曜日から「ノベナ（9日間の意）の祈り」をして、準備します。

聖ファウスティナ・コヴァルスカの神秘的な啓示によるとファウスティナの前に現れたイエス・キリストご自身のお望みに応じて神のいつくしみの主日を祭日とすることになりました。彼女の記した日記には「神のいつくしみの祭日」についてイエスのおっしゃった言葉が下記のように書かれています。

- 1 「……わたしはご復活祭後の最初の主日がいつくしみの祭日となることを望む。」（日記299）
- 2 「わたしはいつくしみの祭日が、すべての霊魂、特に哀れな罪人のための避難所、隠れ家となることを望む。その日、わたしの慈しみの内臓（はらわた）が開かれる。わたしの慈しみの泉に近づく霊魂に、恵みの大海を注ぐ。告解に行き、聖体を拝領する霊魂は罪と罰の完全な赦しを得る。その日、恵みが流れ出る神の水門はすべて開かれる。」（日記699）
- 3 「……復活祭後の最初の主日は慈しみの祭日であるが、慈しみの行いもなければならぬ。その祭日を荘厳に祝うことによって、また描かれている絵を崇めることによって、わたしのいつくしみが崇められることを求める。」（日記742）

### いつくしみの祭日の歴史

シスター・ファウスティナの霊的指導者であり、贖罪司祭であったミハウ・ソポチコ神父が、1937年にまずポーランドの教会から広めるために取り組みはじめました。1946年にポーランドの司教会議は、復活祭あとの神のいつくしみの主日を制定してもらうように、バチカンに申請しました。

しかし1958年11月19日、教皇庁から制定するにあたり、3つの法令にそぐわないという要因があるということで禁止されてしまいました。

しかしその間も青年の時からファウスティナの日記を読み、祈り、熱心な支持者だったカロール・ヴォイティワ司教（後のヨハネ・パウロ2世）はポーランド

の司教たちに何年も働きかけ、その影響で20年後の1978年、教皇庁よりファウスティナの日記と祈りの禁止が解かれ認可されました。その半年後の1978年10月16日に、ヨハネ・パウロ2世が教皇に選ばれました。

1993年ポーランドの司教たちは、復活の第2主日を神のいつくしみの日に制定することを要請し、1997年、ポーランドの典礼歴に神のいつくしみの祭日に制定することの許可が下りました。

そして2000年の聖ファウスティナの列聖のときに、イエスがファウスティナに語って望んだとおり、復活祭の次の日曜日を、正式に全世界に「いつくしみの主日」として定めることをヨハネ・パウロ2世は公布し、登位3年目に回勅「いつくしみ深い神」を發布しました。

2000年の聖ファウスティナ列聖の時に、第2日曜日が神のいつくしみの祭日と宣言されました。2002年8月17日にヨハネ・パウロ2世は、祈りの中で神のいつくしみに全世界をゆだねられました。

2011年5月1日神のいつくしみの祭日のときに、ヨハネ・パウロ2世は列福されました。そして2014年4月27日慈しみの祭日の日に聖人となります。

「イエスよ、あなたに信頼します」

ご復活と神のいつくしみの主日を祝うために、みなさんと共に良き準備をいたしましょう。